

# 読書調査にみる漱石作品

都 留 憲 一

## 一、全国読書調査にみる漱石作品

はじめに

文壇的処女作「吾輩は猫である」(以下「猫」と略す)から「坊っちゃん」「三四郎」「こゝろ」「明暗」と僅々十年間の作家活動でありながら多くの著名な作品を残した夏目漱石の名前を一度も耳にしたことがないものは、ほとんど稀であろう。

彼の作品には、僅かな作家活動の期間に、大きな作風の変遷の跡を認めることができる。そして全体的には暗い、陰うつな作品が多いにもかかわらず、彼の愛読者は、死後五十年を過ぎても減少することなく、又彼の作品は全集となり文庫本となって、広く流布しているという現象を呈しているのである。これほど漱石作品が好まれる秘密はどこにあるのだろうか。漱石は「国民的作家」であり、又「日本人好みの作家」であるとはよく言われることばである。はたして漱石のどこに私達は魅力を見出ししているのであろうか。

以下、昭和四十二年、毎日新聞社が満十六歳以上の男女約七千人

を対象とした「全国読書世論調査」と、小学校四年生から高校三年生まで約一万三千人を対象とした「小・中・高校生読書調査」とから、漱石の占める位置をみてみたいと思う。

### 1、全国読書世論調査からみた漱石の位置

夏目漱石は、全国の読者層にどのように受けとめられているであろうか。

「全国読書世論調査」の(表1)「戦後二十一年間ひとびとに印象を与えつづけた本」(「資料編」参照)で、漱石の「坊っちゃん」は六位にランクされている。又(表3)の「一年間に読んでよいと思った本」としては、「こゝろ」が十位を占めている。この結果からみれば、漱石はそれほど絶対的に人気のある作家であるとは言えないことになる訳だが、(表7)及び(図1)で示された事実、彼がいかにコンスタントな人気をもち、各年齢層に支持されているかということを示している。

以下、表及びグラフについて細かくみていこう。

(表1)の「戦後二十一年間ひとびとに印象を与えつづけた本」と

(表3) 「一年間に読んでよいと思つた本」とを比較した場合、書物の時間を媒介とした影響という問題を考える場合、興味深い事項である。

つまり「一年間……」の上位十作品のうち、「戦後……」に顔を出している作品は「風と共に去りぬ」と「大地」二作品のみであるという事実である。「徳川家康」「華岡青洲の妻」「白い巨塔」等が、近年に発行された作品であるというハンディキャップを考慮に入れるにしても「……よいと思つた……」という印象度を、そのまま受け入れかねるものがある。「徳川家康」以下の作品は、近年のもので、いわば時の修練を経ていない作品である。そしてこれらが、テレビ・映画にとりあげられたことも、作品のみによる影響という問題と絡み合わせた場合、見逃すことのできない要因とならう。

では「戦後……」で一位と五位を占めている吉川英治の作品が、「一年間……」で一つも見当らない事実をどう説明するか。

それは現代のマスコミの問題について触れねばならない。現代ではベスト・セラー作品は読者がつくるといふよりは、出版業界でつくられると言つた方が適切であらう。さまざまな文学全集の氾濫、テレビ・映画等の他のマスメディアを利用しての販売合戦は、一見私達に書物選択のわくをあげているように見られるが、その実、書物選択の余地をなくさせかねない状態なのである。そのことが(表3)の結果に少なからず影響を及ぼしているように思われる。もちろん作品そのものの価値で人々の心をうったものもある。しかし中にはマスコミの人気におされて主体性のない回答となつたものもあるのではないかという一抹の危懼さえおこることもある。

いずれにせよ、最近の一年間という限られた期間内の「……よいと思つた本」にも、それ自体の価値はあるものの、普遍的なものになるには、まだまだ多くの要因がいることを(表1)と比べ合わせた場合、考えさせられた。

(表7)は「好きな著者」について調べたもので、各著者における男女の支持者数と共に、その著書のうちで最も人気であった作品を、あわせ記している。それによると夏目漱石が最も人気が高く、以下吉川英治、石坂洋次郎、武者小路実篤、井上靖と続いている。以上の五人を年齢別支持層でグラフで示したものが(図1)である。

以上のことから知れることは、トップの漱石は男女の別、年齢の別を問わず人気のある作家ということである。(表7)において、漱石は百三十四人の支持者のうち、男六十九人、女六十五人と、ほぼ同数の支持者をもっているのである。作家の価値を男女支持者数の平均化に求めようとは思われないが、少くとも性別による偏りがみられないということは、作家として、作品として幅のあることを示しているものではなからうか。このことは、吉川英治、石坂洋次郎についてみてみればわかるであらう。前者においては男に人気があり、後者においては反対に女に人気が高い。極論すれば、一方に人気があつても、他の一方には人気を得る魅力がなかったということになる。彼らの作品において人気のあるものと言え、吉川英治では「宮本武蔵」「新・平家物語」等の作品であらうし、石坂洋次郎では「陽のあたる坂道」「若い人」であらう。「宮本武蔵」では、「武蔵が我欲を去って剣禅一致の境地を得るといふ自力本願の生き方が日本人好みの求道のシンボルとして広くひとびとに親しまれて

きたのであろう」(毎日新聞)作品として、又「新・平家物語」では、「動乱の源平戦のあとに静かな人間のしあわせな生活があるという作者自身の思想が裏打ちされた作品」(同)として、日本人、とくに男性の共感をよぶものではないかと思われる。

一方、「若い人」以下一連の青春作品を多く書いている石坂洋次郎は、明るい人生観と旺盛な行動力に満ちた人物を作品に登場させることで、女性にアピールするのであろう。

だがしかし漱石の場合、平均化された支持者を有しているとはいっても、彼の作品の中で最も人気があるのが、「坊っちゃん」であることを考えた場合、手放して喜べないものがある。「坊っちゃん」の読みとりが、どの程度のものか知るすべもないが、坊っちゃんも単純明快な倫理感、向こうみずとも思える行動力は、男性にも女性にも一種の憧れをもって迎えられるものではなからうか。そのため現代生活の欲求不満解消の小説として読まれないともかぎらないのである。上位の「宮本武蔵」「陽のあたる坂道」「点と線」等が割合問題意識の薄い作品であるだけに、余計一層その感じがするのである。

(図1)は「好きな著者」として挙げられた上位五人を年齢別支持層によってみたものである。これで知れることは、十―二十代では漱石は石坂洋次郎と並んで圧倒的な支持者数を有していることである。しかし石坂が二十代をピークに急激に下降線をたどるのに対して、漱石はそれ以後の年齢層においても常に上位を占めているということである。次に吉川英治との比較においてはどうか。彼はむしろ三十代、四十代の層に人気のある作家である。その点では漱石も及ばない。石坂が人生の前半期に多く読まれる作家であるのに、対

し、吉川は人生の後半期にかけて人気を博する作家であると言える。このことは(表7)で作家の男女別支持者数でみたことと無関係ではあるまい。

つまり吉川の大衆小説(仮に名づけるとしたら)は、人生の諸相をくぐりぬけた中年層の人生観がうたわれた作品が多いのに対し、石坂の青春小説は、これから人生に巣立とうとする若年層の生き方に焦点をあてたものが多く、当然彼らに人気が集まったものと思われる。

では漱石はどういう作風をもった作家であるか。これは一概に規定することのできない問題である。なぜなら彼ほど作風の変遷の激しかった作家は珍しく、初期の「猫」「坊っちゃん」「二百十日」「倫敦塔」「草枕」では浪漫的色彩がただよっている作品であり、中期では「三四郎」以下第一の三部作で代表される知的要素の濃い作品が、後期では「行人」「こゝろ」「道草」「明暗」と人間のエゴイズムを解析した作品と、その作風は多様にわたるのである。

ある者は彼の初期の作品を好むであろうし、又ある者は後期の作品に自分の生きがいを見い出すかもしれない。つまり各年齢層に支持されるべき内容のある作品を有していることで、単に彼の愛読者が多いということのみではなく、幅広い読者層をもつことができることに他の作家とは異なった特長があるのである。

## 2 小・中・高校生読書調査からみた漱石の位置

漱石作品は、小・中・高校生にどのように読まれているであろうか。

小学生においては漱石作品は皆無である。△「資料編」参照（表1）▽これは何も漱石に限った現象ではなく、「エジソン」「野口英世」といった偉人伝、「小公女」「小公子」といった少女小説が多く選ばれていることと関係する。これらのものの中には必ずしも作者と作品とが密接な連関をもつ必要のないものも含まれており、彼らの読書選択が作品中心であることがうかがわれる。彼らの読書傾向が作中人物とくに主人公に容易に同化でき、教訓的要素が含まれているものに向けられていることが示されている。

中学生では偉人伝は姿を消し、代わって「十五少年漂流記」「ルパンもの」「シャーロック・ホームズ物語」等の冒険物、探偵物に男子は興味を示す。一方、女子では「若草物語」「小公女」といった少女小説がひき続き多く読まれるが、「あゝ無情」「赤毛のアン」等も姿をあらわしてくる。漱石作品はこの頃から登場し、「坊っちゃん」が一年から三年にかけて男女ともに読まれていることが知られる。

高校生では、いわゆる名作ものがほとんどを占めている。中学生で人気のあった「坊っちゃん」は、高校生でも人気のある作品であるが、男子に偏っているところに特徴が見い出せよう。漱石作品では「坊っちゃん」の他に「猫」「三四郎」「こゝろ」が読まれていることが知られる。

高校生では人間の生き方に目を向けた作品が多く読まれている。友情、恋愛の問題を扱った作品が多くあげられていることは、彼の関心のあり方を示すものとして注目されよう。

「三四郎」は、二年・三年で人気のある作品で、三四郎と美禰子を中心にした浪漫的抒情が、友情とも恋愛ともつかない一種不可解

な心理のもとに描かれており、同様なテーマをもつと考えられる。「友情」「狭き門」と並んで、高校生に迎えられているのである。

又「こゝろ」は女子に人気のある作品である。この作品においては「坊っちゃん」でみられたユーモアの要素は消じ、「三四郎」のもつ抒情性も姿を消し、生き方そのものを直視した一人の人間の姿が浮き彫りされている。そこには小・中学生ではみられなかった作品を通じて人生のあり方を考えようとする態度のあらわれがみられ、読書態度の変遷の跡がしのばれる。

興味深いことは「坊っちゃん」「猫」（「猫」の方が「坊っちゃん」より制作年代は早いのだが）「三四郎」「こゝろ」と辿った彼らの読書遍歴が、漱石の作家活動の遍歴と一致することである。その作家活動において一貫したテーマと取り組んだ彼の作品が、意識的であれ無意識的であれ、彼らの読書遍歴に符合しているところに、漱石作品の独自性があるように思える。

## 二、高校生を対象とした読書調査にみる

### 漱石作品

はじめに

全国の読書調査にみる漱石作品の位置は前記した。しかしそこで得られるものは、漱石作品の概略であり、作品に対するほんの一片の感想すら掴むことはできなかった。それ故学習者の生の声を聞きたいと思ひ、又「小・中・高校生読書調査」が時代の幅をもっていたのに対し、現在の高校生の小説作品に対する接触度を調べたいと思

い、この調査を実施した。

本調査は昭和四十三年十月二十九日から一週間、広島市内の四つの高等学校（公立高校A校・公立高校B校・私立高校（女子のみ）C校・私立高校（男子のみ）D校）の一学年から三学年まで各クラスずつ、約五百名を対象に行なったものである。

おびただしい書物の発行される今日において、高校生はどのような書物選択をしているであろうか。又漱石の作品はそれらの中で、どのような位置を与えられているであろうか。これらのことを探るため、別紙（「資料編」参照）に掲げた項目を設けて実施してみた。

## 1 高校生の小説に対する接触度

まず、はじめに、一体高校生は、どのような作家を好み、どのような小説作品に関心を示しているであろうかということをつかみたいと思つて次のような設問で調査を試みてみた。

(1) あなたの好きな作家を一名あげてください。

(2) あなたの好きな小説を一編あげてください。

そして次は漱石作品の項であげたものであるが、「小説に対する接触度」と関連が深いものとなるので、ここにあげてみた。

(G) 漱石の作品以外で好きな作品一編をあげ、その理由を書いてください。

これらの問を發して書かせたのが「資料A」「資料B」である。  
（「資料編」参照）

「資料A」から知れるように、男女を問わず、好きな作家としては石坂洋次郎、夏目漱石、川端康成、武者小路実篤といった作家が

あげられている。これを「資料B」と対応させた場合、石坂では「陽のあたる坂道」、夏目では「坊っちゃん」、川端では「伊豆の踊子」、武者小路では「友情」が多く読まれていることに気づく。

つまり、「坊っちゃん」を除く他の三作品は、友情とか恋愛といった心のふれ合いを描いた小説であり、それらに人氣が集まっていたことは前章で述べたように、彼らの精神發達が自ずから書物選択に影響を及ぼしているものと考えられる。

次になぜその作品が好きであるかということであるが、学習者の回答をあげて検討してみよう。

——好きな作品とそのおもな理由——

○伊豆の踊子（川端康成）

・主人公が身分の違う踊子と一緒に旅したところに作者の性格を感じる。又「いい人ね」「いい人はいいね」というところで、ものを純粹にみることができると感動した。（高二女子）

・踊子と私との清純な愛が描かれていて、今の私達にちょっと関係があり、好きな作品である。（高一女子）

○陽のあたる坂道（石坂洋次郎）

・私達と同じような年齢の人を対象にして書かれてあるので、素直に作品の中にはいれる。（高二女子）

・若々しく現代的な愛が描かれていて、読んでいて楽しい。（高二女子）

○友情（武者小路実篤）

・愛を失う友と、傷つけまいとする主人公の心のありさまが美しい。（高三男子）

・失恋によって人間的成長をとげた青年像を純粋なタッチで描いていて、心がひきつけられる。(高二女子)

・内容が私達の身近におこる問題をとり上げていて、裏の友情のあり方を考えさせられる。(高二女子)

○風と共に去りぬ(M・ミッチェル)

・大きな歴史の背景をもち、女性らしい細やかな描写、主人公の大胆さなど……すばらしいの一言につきる。(高三女子)

・主人公の生き方に共鳴できるから。又自分の生き方に対するアラスになるものが含まれているようだから。(高一女子)

○坊っちゃん(夏目漱石)

・坊っちゃんの無鉄砲なところに、何となく憎めないものを感じる。(高一男子)

これらのことからわかるように、彼らが好む作品とは、彼らの年代にふさわしい問題がとりあげられていて、作中人物(とくに主人公)の生き方に共感できる要素をもったものということができよう。また女子に外国作品を好む傾向がみられるのは、壮大な歴史舞台を背景にしたロマンが、日本文学の大旨日常生活の瑣末なでき事が素材となるものに比べ、より一層興味をひくものと思われる。

## 2 夏目漱石の作品に関する読書調査

本題の漱石作品の読まれ方の実態を探っていくわけであるが、次のような問を提出して、漱石作品の浸透度を調べてみた。

(1) 夏目漱石の作品を読んだことがありますか。

これに対しては約九十九パーセントの学習者が、「読んだことが

ある」という回答を示した。教材として彼の作品は、かなり多く採られていて学習者にとって親近性があるとはいえ、単にそれだけの理由でこの数字をみることはできない。彼が「国民的作家」であると言われるゆえんも、このあたりに存在するように思える。彼の作品を読んだことがないというものについて調査してみると、「外国作品に心がひかれて、日本の作品は読まない」という回答があったことを記しておこう。

## 3、漱石作品の読まれ方の実態

「1」漱石作品の読まれる時期

漱石作品に関するアンケートの一項目として「猫」から死をもって絶筆となった「明暗」まで著名と思われる作品十九編を挙げ、今までに読んだことのある作品に○をつけ、併せてそれを読んだ学年を記入してもらうことにした。「資料C」「資料D」(「資料編」参照)はその結果を示したものである。

「2」全体の傾向

これらの表から、漱石作品の中では「坊っちゃん」「猫」「ころ」「三四郎」といった作品が多く読まれていることが知られる。中でも「坊っちゃん」は、小学校の高学年頃から読み始められ、高校生までひきつがれるといった広い読者層をもった作品であることがわかる。「坊っちゃん」の作品的魅力については後述するが、文学作品において、低年齢層から、かなりの高年齢層までに愛読される作品をもっていることは、文学作家としては稀有のことと思われる。彼の人気の幅がうかがわれる一事実であろう。

またこの作品が、読者にとって、以後の漱石作品に接する導入の

役割をつとめたものと考え、**「坊っちゃん」**のもつ意義は、読者にとって漱石作品の中で大きな位置を占めるものと解される。

① **「坊っちゃん」**について

**「坊っちゃん」**は、前記したように低年齢層から、高年齢層にかけて幅広い人気をもつ作品であり、男女を問わず受け入れられていることは、坊っちゃんの型破りの性格に憧れを感じ、又一編のユイモア小説として、これを享受しているものと思われる。

しかし**「坊っちゃん」**の読まれ方は年齢と共に変遷するものと考えられ、**「漱石作品の印象度」**で述べるつもりであるが、**「坊っちゃんのおだ名のつけ方」****「坊っちゃんの自由奔放でバイタリティにあふれた生き方」**に作品としてのおもしろさを感じとったものから、**「坊っちゃんの性格と彼をとりまく社会とを考え合わせて、坊っちゃんの生き方を考えてみる」**のままで、さまざまな読まれ方がみられる。

年齢と共に、読まれ方の変化をきたす作品というものは、作品自体が読者の中で発展するものと考えられ、単に**「坊っちゃん」**が幅広い人気のある作品だけではない要素もみられるように思う。

② **「吾輩は猫である」**について

**「猫」**は**「坊っちゃん」**に次いで人気のある作品である。そしてこの作品も小学校の高学年頃から読まれ始めていることも**「坊っちゃん」**と共通した現象である。

さて**「坊っちゃん」****「吾輩は猫である」**という題名は、慣れるとそう奇抜な感じは受けないが、読者をはじめて、これらの作品に接

する時、題名は、かなり読書選択に影響を与えるものと思われる。毎日新聞の読書調査によれば、「本を読む動機」としては、「書名がおもしろいから」が小・中・高校生ともにトップを占め、以下高校生では「好きな著者だから」「昔から有名な本だから」「友だちにすすめられて」「家の人にすすめられて」の順になっている。「資料E」に示したものは、これに做ったもので、漱石作品を読んだ動機について調べてみた。

「3」漱石の作品を読んだ動機は何ですか。下にあげたものの中から、該当するものに○をつけてください。

- 1、友人にすすめられて
  - 2、先生からすすめられて
  - 3、書名がおもしろいと思ったから
  - 4、たまたま図書館や自分の家にあったから
- その他（ ）

その回答は左の表に示した

【資料 E】

動機	実数		
	男	女	
1	8	23	
2	14	56	
3	31	59	
4	83	129	
その他	でからにの	2	3
	レビか書たの	4	6
	テ見た科あて有名なの	5	3
	見教科あて有名とし	0	2
	で常識と人	0	1
	家すめ	0	0
	すれ	0	0

この表から「書名がおもしろいと思ったから」が「たまたま図書

館や自分の家にあつたから」に次いで、漱石作品を選んだ動機としてあげられていることが知れる。

「坊っちゃん」「猫」が書名の魅力のため選ばれている一面もあるのではなからうかという推測は、学習者の三十パーセント弱が書名にひかれて漱石作品を選んでいるという事実に接する時、私達は、作品の本質的価値とは異なつた外在的要素が、読書選択に作用することを認めなければならぬ。

しかし、一歩作品の中にはいろいろんだ場合、「猫」の「坊っちゃん」とは異なる独自性があることに気づく。

学習者は「猫」の魅力を、「ユーモラスな文章表現」「猫を人間と見立てて批評させていること」等に見出し出しているが、これは猫を坊っちゃんに置き換えたにすぎないにせよ、「坊っちゃん」で見られた作品批評の一片すらも「猫」には見出し出されないことに、「坊っちゃん」と「猫」とが学習者に与える本質的な問題が異なっているのではないかという気がする。

#### ③ 「三四郎」について

「三四郎」は、中学生から、高校の低学年にかけて多く読まれる作品である。

三四郎と美禰子との複雑な恋愛心理を描いたこの作品は、作品内容において「友情」「伊豆の踊子」と似通うものがあるように思える。しかし「資料B」からわかるように、「好きな作品」の中に「三四郎」は含まれていない。

このことについて考えてみるに、「友情」「伊豆の踊子」には、彼らに真の友情のあり方、純粹な愛の姿を伝える何かがあった。

「三四郎」について考えた場合、彼らの年齢に近い人物が登場し、友情、恋愛の問題が書かれているにもかかわらず、作中人物の織りなす心理模様は、前記二作品とは異なつて、彼らに直線的に作品世界へはいることを拒んでいるのではないか。そこに「三四郎」独自の魅力を認めることができるのであり、「坊っちゃん」「猫」とは異なつた漱石の作品世界を知ろうとして、「こゝろ」と共に、中学生から高校生にかけて多く読まれているものと考えられる。

#### ④ 「こゝろ」について

「こゝろ」は、漱石作品の中では、高校生にもっとも多く読まれる作品であると言えよう。この作品も「三四郎」と同じく、友情と恋愛について書かれてはいるが、内容の深まり、作品構成の緊密さにおいて、前者の比ではない。感想文において、「先生の心の苦悶が胸をうつ」とか「人間の心について深く考えさせられた」といったものに多く接するが、これらは今までに述べてきた漱石作品、及び「友情」「伊豆の踊子」とも異なつた感想の述べ方であることに気づくであろう。

つまり、素直に作品の中にはいれる、共感できるといった、ある意味で作品を客観視することができるものに比べ、「こゝろ」は、そんな余裕を与えない作品であると言つたら言い過ぎになるのである。

しかし反面、人間の心を追求していったこの作品が、暗いものとなつて反発し、「人間の醜さが知られ、嫌になつた」「暗い作品で堅苦しい」といった非難のことは聞かれる。

そういう意味で、教材としては、「明るく人生において励ましを与えるようなもの」がふさわしく、又現に右のような観点で採られ



〔資料 F〕

漱石作品のうち、とくに印象に残ったもの

作 品 名	計	男	女
坊っちゃん	124	47	77
吾輩は猫である	89	36	53
こゝろ	56	22	34
三四郎	19	13	6
虞美人草	9	2	7
草枕	7	2	5
それから	3	3	0
門	3	1	2
二百十日	2	2	0
夢十夜	2	2	0
道草	2	2	0
明暗	2	0	2

ているものもあるが、要は学習者自身のとらえ方であって、「好きな作品」の中で、「怒りの葡萄」「車輪の下」「レ・ミゼラブル」等、人間の苦悩が描かれており、必ずしも明い要素が含まれているとはいえない作品が好まれている事実に接する時、否定反応を恐れすぎるあまりに、偏った教材選択になってはいけないことが思い合わされる。

先にあげた非難のことばも、学習の過程において、効果的に取り上げられるならば、漱石文学で追求された、テーマと深く係わり合う問題となる。

4、漱石作品の感銘度

さて、前節では、漱石作品ではどのようなものが好まれているかを見たわけであるが、ここでは、それらの中で印象に残っているものはどういうものかということ調べるため、特に感銘を受けた作品二つを選び、併せてその理由を記してもらった。

次にどういふ点で感銘を受けたかについて、感想文からその主なものあげて、考察を加えてみた。

○「坊っちゃん」

・坊っちゃんの明朗な、サッパリと割りきった性格に、痛快さを感じた。  
(高一男子)

・一人の青年教師が、世の中の汚なさを他の教師たちを通してみて、それに精一杯反発する気持ちがあった。  
(高二女子)

・私たちが思っていることを、ズバリ書いているし、ユーモアのある表現で、読んでいくごとに次第に熱中し、やめられなくなつた。  
(高一女子)

・この作品を読んで、感銘というよりはむしろ矛盾を感じた。というのは、狸とか、赤シャツとかの人物が、最後まで得をしている、結局、主人公はもう一度やり直ししなければならなくなつたのではないかと思つた。  
(高一男子)

(私見) 坊っちゃんの型にはまらず、無鉄砲とも思える行動力は、彼らに一種の憧れに似た気持ちを抱かせるものである。

また坊っちゃんの純粹で、悪を憎む気持ちは、現代社会において薄らぎつつある生き方として、一層の関心をよぶものである。

しかし、この作品が勸善懲惡型の性格を帯びていることに鑑み、果たして坊っちゃんの生き方は、正当なものであったろうかということ目を向けた学習者の感想は、この作品の一面を表現したものとして注目されよう。

○「吾輩は猫である」

・猫の眼を通して人間批評、文明批評がなされていて、ユーモアのある作品だと思った。 (高二女子)

・猫を通して、猫と人間社会との間に生じるさまざまな感情を、日常私達が気づかぬところからテーマをとり、巧みに描かれている。

表現は少し固い感じがするが、ユーモラスなところ、皮肉ぶって書いてあるところが強く印象に残っている。 (高三女子)

(私見) 作者が、猫に視点を置いて、人間世界を描いている点に、奇抜さ、新鮮さを感じているものが多い。そしてそのことが人間批評、文明批評に触れている箇所により抵抗なく受け込んでいく要因となっているものと思われる。

しかし、この作品に対する批判を述べた感想文がみられないことは、「猫」のもつ作品としての深遠さと共に、教材としての適格性を考える上で、是非とも目に止めねばならぬことであろう。

○「こゝろ」

・あまりにも純粋な先生の性格に興味をひかれる。しかし自殺までしなくてもいいのと思うが、先生の考え方には共感できる。 (高三男子)

・先生がなぜ自殺しなければならなかったかということに疑問を感じる。

でも先生の遺書を読んでいると、人間の心の中にあるものについて考えさせられるような気がする。 (高二男子)

・先生の心の苦悩が胸をうつ。漱石の他の作品にみられるような茶化したところがないので好きだ。 (高二男子)

・人間のエゴイズム、そしてそれが生む人間悪と人生苦、それらについて考えさせてくれる作品である。そしてその中に漱石の倫理観が働いていて、自分の考えと比較できる。 (高三女子)

(私見) この作品で、問題になるものは、何といっても先生の生き方であろう。

彼の生き方の是非については、さまざまな考えがあろうが、考えさせられるような作品であることに「坊っちゃん」「猫」とは異なった特性があるのではなかるうか。

○「三四郎」

・美禰子のはっきりしない態度が印象に残っている。 (高一男子)

・美禰子の「無意識の偽善」にひかれる三四郎の素朴さに感銘をうけた。 (高二女子)

・飄々と生きている三四郎に好感がもてる。嫌味のない作品である。 (高二女子)

・広田先生の人間に対する痛烈な批判やエゴイズムについての論は、考えさせられた。 (高二男子)

(私見) 学習者が心をひかれるのは、三四郎よりもむしろ美禰子である。彼女の不可解な態度は、三四郎のみならず、学習者の興味をさそう。二人の淡い感情は、学習者にとって大旨好感をもつて迎えられる。

また、二人以外の人物については、広田先生について述べたものが多く、彼の人間批評は現代にも通じるものがあるらしい。

### ○「虞美人草」

・人間の内に生き続けるエゴイズム。自信にみちあふれていた人間が崩壊する悲しさ。作者が人間の弱さを巧みなタッチで描いている点に感銘する。

(高二女子)

・藤尾の性格は勝気で、わがままであるが、私はどことなく彼女にひかれる。

(高二女子)

(私見) エゴイズムが深く巢喰っていることで、作者によって否定的評価された女主人公藤尾は、現代にも通じる存在ではなからうか。それは否定されるものでもあり、また憧れの対象ともなりうるものでもある。学習者は彼女の中に自分自身を感じ、この作品との接点を見い出そうとしているのではなからうか。

感想文を読んでみて言えることは、「坊っちゃん」「猫」と「ころ」「三四郎」「虞美人草」とでは、受けとり方が違っているということだ。

つまり「坊っちゃん」「猫」では、作者のユーモア、人間批評の鋭さに学習者の目はそそがれた。

しかし、「ころ」以下の作品においては、作者が追求した自我の存在について、程度の差はあれ、学習者自身も考えてみようとする態度がみられることである。

漱石作品を教材として取り扱う場合、今述べたことは一考察の資

料となるのではないかと思う。

なぜなら、短い作家活動の間において、作風の変遷は激しかったというものの、作品の根底を流れるものは、一貫しているものと思われる。

要は、現われ方の違いであって、「坊っちゃん」「猫」のように、坊っちゃん、猫という人間離れた、戯画化された主人公の眼を通して社会を、人間をみつめたものと、朝日新聞入社とともに職業作家として出発した後の最初の作品「虞美人草」を起点として展開される以後の作品にみられる、人間に、より日常的な人間に焦点をあてて書かれたものとの二つ異なった傾向をもっているというものの、人間存在、自己存在を探求していることに共通の要素を見い出せる。

小説作品の学習においては、学習者が興味、関心を抱いている事柄から学習活動にはいることは、一つの効果的な方法ではなからうか。具体的に言えば、「坊っちゃん」「猫」の感想文にみられた、坊っちゃんの性格に対する好意の感情、作品の中で重要な位置を占める批評精神の抵抗なしの受け入れは、作品の底を流れる強烈な人間批評と表裏をなすものである。

また、「虞美人草」以下の作品では、人間存在、自己存在の問題が正面切って扱われており、学習者もそのことに関心をもっていて問題は少ないと思われるが、作品の解決を神にも、俗世間にも求めなかった作者の態度は、「考えさせる」作品として好個のものと言えないだろうか。

## 5、「漱石が好きでない」ことについて

今までは漱石作品がなぜ好まれていたかについてみてきたわけがあるが、ここでは反対に漱石作品について嫌悪感を抱いているものを取りあげ、その原因となっているものを調べるため、次のような問を提出した。

(5) 漱石が好きでない人は、その理由を( )内に書いてください。

回答されたものの中から、そのおもな理由をあげると、以下のとおりである。

- ① 内容が暗くて、文章表現が難しい。(高一男子)
- ② (読んでいるのは「坊っちゃん」「猫」二作品である)中途半端なおもしろさに過ぎない。(高二男子)
- ③ (「こゝろ」を読んで)主人公には人生を生き抜こうとする逞しさが感じられない。(高二女子)
- ④ 内容がみにくい。(高三女子)
- ⑤ 文章がさらりとしていて、粘っこさ、優美さ、抒情性がない。(高一女子)
- ⑥ 日本の作品はあまりにも平凡な日常生活を描写したものが多く、外国文学にみられるような理想ともいふべき空間の作品が少ないように思える。日本にも秀れた作品が多いことはわかっているが、一般の人のように素直に受止められない。だから漱石の作品が嫌いなのではないが、日本の作品に興味がないのである。(高二女子)

漱石の文章表現に関する問題は、ここでは触れないこととして、学習者が彼の作品に対して抵抗を感じる最も大きな要因は内容面の暗さということであろう。

このことは前記したように、作者が作品を通して追求した人間存在、自己存在の問題が極限に近づけば近づく程、そのテーマを担った主人公は、「自我の内部に閉じこもって、自ら完全に他者から孤立した人間(佐古純一郎「近代日本文学の倫理的な探求」)となり、「懐疑的」「不安的」「絶望的」(同上)様相を帯び、それが作品世界にも反映して暗いという印象を与えるのではないか。

しかしこれをもって漱石の文学を暗澹の文学と規定するのは危険であろう。むしろ人間存在、近代的な自我の問題について追求していった作者の誠実な文学精神のあらわれといえないだろうか。作品「こゝろ」のもつ暗さは、おそらく誰もが指摘するものであらう。

しかし、その中に提出されているテーマが、私達にとって共通なものであり、作者が安易な解決を下していないところに、この作品の一特長があるのではなからうか。それ故作品の暗さのみ目を奪われて、教材としてこの作品を採り上げることには躊躇をする向きには、一考してもらいたい事柄である。

「猫」「坊っちゃん」の中途半端なおもしろさについての意見は、ある面では、これらの作品の本質をついたものと言えよう。

これらの作品が、作者の精神状態が不安や憤りに満ちていた当時に執筆されたものであって、そのためあまりにも作者の主観が前面に押し出され、作中人物の言動がともすれば一人よがりのものとなり、典型的な人物描写に陥っていることは、免れない欠点として指

摘されるであろう。

しかし感想文が右に述べていることを踏まえたものと仮定した場合、むしろ歓迎すべきことではなからうか。「猫」「坊っちゃん」は、中学の教材として採録される場合が多いが、高校においてとりあげたら、又新たな見方も生じてくるものと思われる。

⑥の日本文学と外国文学との比較について述べた意見は、日本文学を漱石文学と置き換えた場合、そっくりそのまま漱石の限界でもあり、漱石の独自性ともなる。

日本文学は日常卑近なでき事に題材を求め、小世界の中で解決法を見い出す文学であるとはよく言われる論である。これが壮大な歴史、社会を背景にして物語が展開される外国文学と比較した場合、各人によって好みの異なるのは当然であると言えよう。

要は、作品がいかに人生を誠実に追求しているか、そして読者はその作品によってどれだけ影響されるかということが重要であろう。

### 6、漱石作品に対する課題

今回の調査で学習者の九十九パーセントは、何らかの形において、少なくとも一作品以上の漱石作品を読んでいることが知られた。さて今後、彼らが今までに読んだ漱石作品を拠り所として、どのような読書態度で臨もうとしているのであろうかということについて調査を試みてみた。

(4) 漱石の作品をこれからも読みたいと思えますか。「はい」「いいえ」のどちらかに○をつけ、その理由を書いてください。

その結果を示したのが「資料G」である。

〔資料G〕

	計	男	女
はい	292	94	198
いいえ	114	52	62

次にそのおもな理由をあげてみよう。

(はい)

・ ユーモアがあって表現の仕方が巧みであるから。(高一女子)  
・ 漱石作品には、社会風刺のものや友情について扱ったものなどいろいろあり、時に応じて読んでいきたい。(高三男子)

・ 彼の作品には、人間の愚かさ、汚なさ、又すばらしさが率直にあらわれている。だからそれを読んで人間一般について考えてみたい。(高二女子)

・ 彼の作品は、人生をどのように生きるかということが追求されており、私達の悩みや人間の本質について考えさせてくれる。(高二女子)

(いいえ)

・ 作品の構成が似ているから。(高二女子)  
・ 利己的な作風に抵抗を感じる。(高三男子)  
・ 他のいろいろな作家の作品を読みたいから。(高一男子)  
・ 何かあまりにも心理を細かにとらえすぎている感じがあり、じ

めじめした作品が多いから。

(高一男子)

これまでしばしば述べてきたように、漱石の作品の基底をなすものは、人間存在、自己存在の追求ということであろう。後期の作品になればなる程、この問題は深まり、作者自身ですら解決の方向を求めて模索しているのではなからうかと思われる。「猫」「坊っちゃん」でみられたユーモラスな調子は姿を消し人間の心の奥底にあるものを凝視した作品が後期には多くあらわれてくる。漱石作品に対する好悪の感情、評価の優劣はこの部分に生じるものと思われ、回答を見ても、作者の人間心理を追求する姿勢に対して論がわかれているように思える。

私見を述べると、人間心理の極限に注目し、誠実に倫理的にこの問題を追求していった漱石作品は、人間が人間である限り、また機械文明の発達で、ともすれば人間不在に陥りがちな現代の状況において、私達に不可避な問題を投げかけている点で価値あるものと言えないであらうか。作品に対する好悪の感情はどうしようもないものであり、それはそれで大切なことだと思ふ。

彼の作品「道草」に「世の中に片付くなんてものは殆んどありやしない」という有名なことばがある。漱石作品で、解決した作品世界をもっている作品はほとんどないといってもいいだろう。これが「友情」や「伊豆の踊子」には見い出されない特徴であろう。

漱石作品が愛読され、今後も読まれるであろうことを示した今回の調査は、単に漱石作品の概略的な理解度を示したものとどまらず、漱石作品の妥当性について触れているものと思われる。解決のない文学が彼らに迎えられることによつて。

#### 故都留憲一君の遺労作

故都留憲一君(大分県立中津北高校出身)は、昭和四四年(一九六九)三月、広島大学教育学部高校教員養成課程国語科を卒業し、同年四月から大分県立野津高校に勤めました。在職二年四ヵ月、都留憲一君は新任青年教師として、全力を傾けて教育のことにとり組みました。昭和四六年(一九七二)七月中旬、中学校時代からの持病であった慢性腎炎悪化のため入院し、わずか一週間の治療を受けただけで、七月一九日急逝しました。

都留憲一君の急逝は、まったく思いがけないことで、その訃音に接しても、すぐには信じられないほどでした。

故都憲一君は、もの静かで温和な人柄、在学時代も黙々と学業に励みました。その成果の一つは、卒業論文「小説の学習指導―漱石の作品を中心にして―」(約二一〇枚)として結実しました。全四章から成るこの労作を、このたび二回に分けて、本誌に掲載することにしました。その調査結果はわが国の読書指導に多くの示唆をもたらすにちがいないと信じております。

有為な人材をあまりにもはやく失ってしまった悲しみの消えるときはありませんが、ここにその論稿を収載して、かつはありし日の都留君の俤をなつかしみ、かつはそのみ霊の冥福を祈るよすがといたしました。

最愛の令息をなくされたご両親の悲歎の情はいかばかりか。お慰めすることばもありませんが、令息の学生時代の形見の一つを読んでいただき、いくらかでもご傷心をやわらげてくださればと、ひそかに念じてやみません。

(昭和51年6月23日記) (野地 潤家)

(読 書 調 査)

毎日新聞社 昭和42年

全 国 読 書 世 論 調 査

(表1) 戦後21年間ひとびとに印象を与えつづけた本

	書 名	作 者	
1	宮 本 武 蔵	吉 川 英 治	19回
2	風 と 共 に 去 り ぬ	M・ミツチエル	18回
3	大 地	パ ー ル ・ バ ッ ク	18回
4	女 の 一 生	モ ー パ ッ サ ン	15回
5	新・平家物語	吉 川 英 治	12回
6	坊 っ ち ゃ ん	夏 目 漱 石	12回
7	細 雪	谷 崎 潤 一 郎	11回
8	友 情	武 者 小 路 実 篤	11回

回数は21回の調査の間ベスト20位に何回入ったかを示す

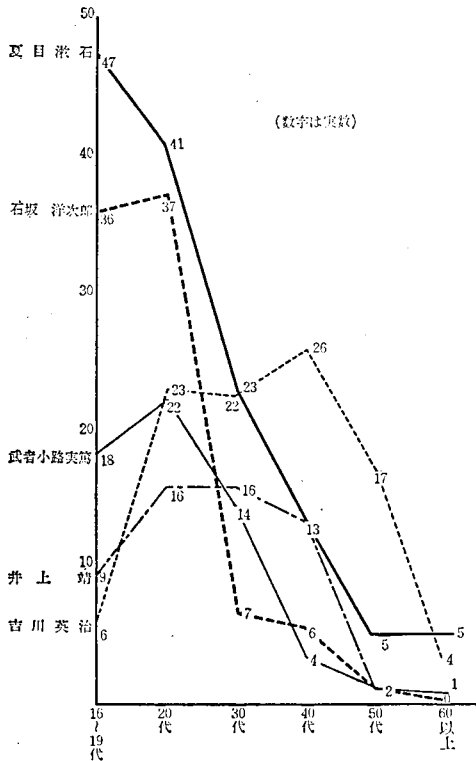
(表3) 1年間に読んでよいと思った本

	書 名	計	男	女
1	風 と 共 に 去 り ぬ	32	0	32
2	徳 川 家 康	31	23	8
3	華 岡 青 洲 の 妻	30	5	25
4	戦 争 と 平 和	25	8	17
5	白 い 巨 塔	21	7	14
6	人 間 革 命	20	10	10
7	大 地	17	6	11
8	日 本 の 歴 史 (中公)	16	9	7
8	海軍主計大尉 小泉信吉	16	9	7
10	こ ゝ ろ	14	6	8
11	嵐 が 丘	12	0	12
11	ジ ー ン ・ エ ア	12	0	12
11	三 国 志	12	12	0
14	女の一生涯 (モーパッサン)	11	0	11
15	黒 い 雨	10	4	6
15	氷 点	10	0	10
15	赤 と 黒	10	0	10

(表7) 好きな著者

	著者名	計	男	女	一番人気のあった作品
1	夏目漱石	134	69	65	坊っちゃん
2	吉川英治	98	81	17	宮本武蔵
3	石坂洋次郎	88	24	64	陽のあたる坂道
4	武者小路実篤	60	22	38	友情
5	井上靖	57	22	35	氷壁
6	松本清張	54	36	18	点と線
7	島崎藤村	53	21	32	破戒
8	川端康成	50	12	38	伊豆の踊子
9	芥川竜之介	48	27	21	羅生門
10	山本有三	45	11	34	路傍の石

【図1】好きな著者ベスト5の年齢別支持層





小・中・高校生読書調査

(表1) 12年間多く読まれた本

学	4年		5年		6年					
	男	女	男	女	男	女				
小	エジソン 野口英世 リソカー ガリバー旅行記 イソップ物語	12 12 12 12 11	シンドレラ 小公子 家なき英姫	12 12 12 12 11	小公子 小公子 野口英世夫人 キューリー夫人	12 12 12 12 11	小公子 小公子 家なき少年 アルプスの少女	12 12 12 12 12		
	1	年	2	年	3	年				
中	十五少年漂流記 野口英世 ルパンのもの あゝ無情	12 12 10 10	小若小 公物無情	12 12 12 10	若草物語 坊っちゃん 次郎物語 あゝ公無情	12 12 12 12	坊っちゃん 次郎物語 ルパンのもの 宮本武蔵	11 11 9 9	坊っちゃん 次郎物語 赤毛のアソ 草物のアソ	12 11 10 9
	1	年	2	年	3	年				
高	坊っちゃん 友次郎物語 次郎物語 泉	12 12 11 10	情話 次郎物語 坊っちゃん 真実一路	12 12 11 9	友次郎 情話 こゝき 狭門	11 11 10 10	友三郎 情話 坊っちゃん 大略	11 10 9 9	友次郎 情話 こゝき 狭門	11 10 9 8
	1	年	2	年	3	年				

(注) 数字は12回の調査の間ベスト20位に何回はいったかを示す

調査方法

(全国読書世論調査)

調査の対象は、層化多段無作為抽出法によって選出された満十六歳以上の男女六、六五七人。まず全国の市区町村を人口、地域性、政治色などによって層別しこれらの層から確率比例抽出法で三・一七の調査地点を決め各地点の住民登録簿から等間隔に抽出した。

調査員が訪問し、回答を求めたが、病氣や旅行などで回答を得られなかった人は一、四二二人あり回収率は七八・六パーセント

(小・中・高校生読書調査)

小中学校はそれぞれの学校の立地条件に応じて、農村、商業地などの十四の地域類型に層化し、さらに各地域類型ごとに在籍児童生徒数の配分比に応じて調査対象を抽出した。高校生は全国の高校を七つの学科に分類し、その在籍生徒数の配分比に応じて抽出した。各学校のクラスを一単位として、質問紙法による集団面接法を行なった。調査対象は小学生四、一五五、中学生四、三九三、高校生四、四九七である。

(表4) とくに好きな著者 (小学生だけはマンガの作者)

		(男)				(女)			
小 学	1	手塚治虫	855	1	椋 凶 かずお	363			
	2	ちばてつや	529	2	ちばてつや	292			
	3	藤子不二雄	409	3	わたなべまさこ	282			
	4	赤塚不二夫	352	4	手塚治虫	253			
	5	川崎のぼる	182	5	牧 美也子	148			
中 学	1	夏目漱石	314	1	夏目漱石	290			
	2	ちばてつや	102	2	石坂洋次郎	274			
	3	手塚治虫	98	3	壺井 栄	78			
	4	芥川竜之介	89	4	芥川竜之介	73			
	5	石坂洋次郎	84	5	山本 有三	46			
高 校	1	夏目漱石	299	1	石坂洋次郎	359			
	2	石坂洋次郎	286	2	夏目漱石	143			
	3	芥川竜之介	153	3	芥川竜之介	89			
	4	石原 慎太郎	79	4	マーガレット・ミッチェル	72			
	5	川 端 康 成	69	5	武者小路 実 篤	69			

読書に関するアンケート

( ) 高等学校 ( ) 年 ( ) 組 氏名 ( )

男 女

出身小学校 ( )

出身中学校 ( )

(1) あなたの好きな作家を一名あげてください。

( )

(2) あなたの好きな小説を一編あげてください。

( )

(1) 夏目漱石の作品を読んだことがありますか。

- イ. あ る  
ロ. な い

(2)

〔ア〕次にあげているのは、夏目漱石の作品ですが、今までに読んだことのある作品に○をつけ、それを読んだ学年を( )内に記入してください。

- 例 ①. 吾輩は猫である (中3)      ②. <sup>ロン</sup>倫 <sup>ドン</sup>敦 塔 (高1)  
③. 坊っちゃん (小6)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 吾輩は猫である ( )   | 2. <sup>ロン</sup> 倫 <sup>ドン</sup> 敦 塔 ( )                |
| 3. カーライル博物館 ( )  | 4. 坊っちゃん ( )  |
| 5. 野分 ( )  | 6. 二百十日 ( )   |
| 7. 眞美 <sup>び</sup> 人 <sup>じん</sup> 草 <sup>そう</sup> ( ) | 8. 坑夫 ( )   |
| 9. 夢十夜 ( )   | 10. 草枕 ( )  |
| 11. 三四郎 ( )  | 12. それから ( )  |
| 13. 門 ( )  | 14. 彼 <sup>が</sup> 岸 <sup>が</sup> 邊 <sup>まで</sup> 迄 ( ) |
| 15. 行人 ( )   | 16. こゝろ ( )   |
| 17. 硝子 <sup>ガラ</sup> 戸 <sup>ス</sup> の中 ( )             | 18. 道草 ( )  |
| 19. 明暗 ( )   |   |
| その他 ( )  |   |

〔イ〕〔ア〕で○をつけた中から、学校での学習の時、読んだものを番号のみ( )内に記入してください。

( )

〔ウ〕〔ア〕で○をつけた中から、感銘を受けた作品二編をあげ、どんな点で感銘を受けたか、例にならって書いて下さい。

例「伊豆の踊子」 私と踊子との清純な愛が全編を貫ぬいていて、心暖まる気がする。とくに踊子とのふれあいによって私の孤児根性がしだいに洗い清められていくところに感銘した。それに表現も美しいと思った。

(3) 漱石の作品を読んだ動機は何ですか。下にあげたものの中から該当するものに○をつけてください。

1. 友人にすすめられて
2. 先生からすすめられて
3. 書名がおもしろいと思ったから
4. たまたま図書館や自分の家にあったから
5. その他 ( )

(4) 漱石の作品をこれからも読みつづけたいと思いますか。「はい」「いいえ」のどちらかに○をつけ、その理由を書いてください。

1. はい

2. いいえ

(5) 漱石が好きでない人は、その理由を ( ) 内に書いてください。

(6) 漱石の作品以外で好きな作品一編をあげ、その理由を書いてください。

作 品

理 由

ご協力ありがとうございました。

〔資料A〕

(1) あなたの好きな著者を一名あげてください。

好きな著者

	著者名	計 (人)	男 (人)	女 (人)
1	石坂洋次郎	78	6	71
2	夏目漱石	47	33	14
3	川端康成	34	9	25
4	武者小路実篤	20	12	8
5	芥川竜之介	11	3	8
5	ヘミングウェイ	11	8	3

〔資料B〕

(2) あなたの好きな小説作品を一編あげてください。

好きな小説作品

	作品名	計 (人)	男 (人)	女 (人)
1	伊豆の踊子	23	4	19
2	友情	19	2	17
2	陽のあたる坂道	19	0	19
4	車輪の下	11	2	9
5	坊っちゃん	9	9	0
5	風と共に去りぬ	9	0	9

アンケート回答人員数

	学年	男 (人)	女 (人)
公立高校A	1	24	20
	2	5	32
	3	24	32
公立高校B	1	0	48
	2	19	35
	3	14	34
(女子のみ) 私立高校C	1		46
	2		51
	3		45
(男子のみ) 私立高校D	1	45	
	2	37	
	3	26	
計		194	343
総計		537	

〔資料C〕 漱石作品を読んだ時期 (四校を通じたもの)

作 品 名	男						計	女						計	総 計						
	小四 以前	五	六	中一	二	三		小四 以前	五	六	中一	二	三			高一	二	三			
吾輩は猫である	6	16	30	38	24	10	8	0	1	132	1	5	24	53	65	53	23	2	4	226	358
倫敦			1	2	1	3	1	1	1	9	1	5	3	2	1	1			3	9	18
カーラアル博物館										0	3	9	24	74	59	58	21	4	1	254	399
坊っちゃん	9	17	36	41	23	15	3	1	1	145	3	9	25	1	1	1	1	1	3	39	10
野分			1	1	2	1	2	1	1	7	9	1	1	3	1	1	1	2	1	3	9
二葉十人			4	4	3	4	3	1	1	15	1	1	1	4	6	10	12	6	1	9	24
虞美人			1	5	6	13	5	1	1	25	4	1	1	1	1	1	1	1	1	39	64
坑			2	1	1	1	2	5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4
夢			4	5	6	3	2	5	5	18	1	25	14	1	1	1	1	1	3	3	21
草十			2	12	15	20	9	5	5	65	3	9	3	14	15	15	12	8	8	54	119
三草			6	14	22	26	23	2	2	93	9	24	19	32	32	24	8	8	8	100	193
それ			4	4	9	13	11	4	4	41	1	4	4	4	4	3	13	5	5	38	79
そ			4	4	4	10	7	4	4	25	1	3	3	3	3	8	2	2	3	20	45
彼			1	1	2	1	3	1	1	7	1	1	1	1	1	2	2	1	2	2	9
行			1	4	3	43	18	2	2	76	17	21	17	21	17	71	6	6	6	122	198
と			4	4	9	4	3	4	4	11	1	3	1	1	1	1	1	2	2	4	15
硝子			1	1	3	8	4	1	1	14	1	1	1	1	1	1	1	3	3	5	19
道			1	1	5	3	4	2	2	13	1	1	1	1	1	1	1	3	3	25	38
明						3	2	1	2	13	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	2
その他 (文鳥)						1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	2

注 ○内の数字はそれぞれを読んだ学年をあらわす

〔資料D その1〕 公立高校 A校

作 品 名	男						計	女						計	
	小四 以前							小四 以前							
	五	六	中	二	三	高		二	三	高	二	三			
吾輩は猫である	2	3	5	9	3	5	29		3	10	15	13	7	5	53
倫敦				1			1			2	1	1			3
カーライル博物館							0	2④	8	15	19	6	5	1	59
坊っちゃん	2	3	8	8	5	7	36		3	8	15	19	6	5	59
野 十人				1			2			1	1	2	2	1	1
二旗							4			1	1	1	2	1	4
美 十人				1			6			4	2		3	1	10
坑 十			1	2			0					1	5	3	10
夢 十				2			2					6	5	1	18
草 十			1	2			2			1	2	10	5	1	18
三 四				2			16			2	2	2	2	1	24
そ 四				1			7					1	1	1	5
彼 岸 門				1			1					1	1	1	1
行 過				1			1					8	1	0	1
と 戸				2			18			1	6	1	18	2	35
と 確				2			4			1	1	1	2	2	2
道 子				2			2					1	2	2	0
明 草				2			2					2	2	2	0
その他 (文鳥)				2			1					2	2	2	4

〔注〕 ○の中の数字はそれを読んだ学年をあらわす

〔資料D その2〕 公立高校 B校

作 品 名	男						計	女						計		
	小四 以前							小四 以前								
	五	六	中	二	三	高		二	三	高	二	三				
吾輩は猫である	1	5	5	6	4	2	1	24	1④							67
倫敦博物館								0								0
カーライル	1	3	4	7	5	1	1	22	4							74
野っちゃん								0								0
野分								0								1
二旗								0								10
百美				1		1	1	3								4
抗夢								0								4
草十			1					4								8
草四								9								24
三門								7								21
それか								2								5
彼れ門								0								0
彼岸								0								1
行と								0								1
と								0								0
磯子								1								1
と								0								0
戸の								1								1
中								0								1
草								0								1
暗								1								1
その他 (文島)								1								1



